

校長室だより No.38 9月15日(火) 企業力を学校教育に (Pepper と CSR)

Pepper (ペッパー) はソフトバンクロボティクス株式会社が開発した人型ロボットです。昨年の情報ITフェアでは5台の Pepper を持ってきていただきました。Pepper のプログラミング体験ブースは参加者に大好評で、特に子供たちがプログラミングをしているときの真剣なまなざしと笑顔が大変印象的でした。子供たちにとって、単なるモニタ上のプログラミングだけではなく、目の前のロボットが自分のプログラミングで思い通りに動くという体験は、教室の中では実現できない「感動体験」だったに違いありません。



昨日、そのソフトバンク様からCSR活動「[Pepper 社会貢献プログラム 2](#)※—プログラミングオンライン体験会—」のご案内をいただきました。今回は[今年の情報ITフェア](#) (Web 実施予定)でソフトバンクブース担当の生徒たちが参加させていただく予定です。

CSRとは「Corporate Social Responsibility」の略語で「企業の社会的責任」という意味で使われています。現在では自社の直接的な企業収益を追求するだけではなく、社会の持続的な発展への貢献などを目的に、多くの企業が環境保全活動やボランティア活動などに取り組んでおられ、Pepper 社会貢献プログラム 2は、最先端 ICT 教育による次世代育成支援を目的としたCSR活動の一環として提供されるものです。

本年度から小学校でプログラミング教育が導入され、本校でもそのお手伝いをさせていただいているところですが、手探りで新たな教育内容の開発をしなければならない学校側にとって、このような教育分野での企業のCSRの取り組みは本当にありがたい存在です。本校ではソフトバンク株式会社様には情報ITフェアのブース出店だけではなく、「[情報科学高等学校魅力化コンソーシアム](#)」の運営指導委員もお願いしており、「最先端のICT教育」などをテーマに情報交換もさせていただいています。

新学習指導要領ではその重要な理念として「社会に開かれた教育課程」という考え方が示されています。その意味するところは多様ですが、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」という部分において、学校教育の中だけでは実現できない教育環境・教育内容をこのような企業のCSR活動の力を借りて実現するというのも一つの有効な手段だと考えています。

今年度、本校では「情報教育の“中心校、から“先進校、へ”」をスローガンに掲げていますが、学校の教員の力だけでは「常に最先端」の情報教育の実施は困難です。魅力化コンソーシアムを中心とした様々な方面のお力をお借りして、本校にとっての「よりよい学校教育」を実現していきたいと考えています。



— 昨年の情報ITフェアでのソフトバンクブース
(画像は掲載許諾済み)

※「Pepper 社会貢献プログラム 2」はソフトバンクグループ株式会社とソフトバンクロボティクス株式会社により提供されています。